

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の径 R…直徑
- ※…間隔 r…半径 L…中心線 L…部材間の内法距離 h…部材間の内法高さ
- ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S…HOOP…横筋 〆…直徑又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d 以上	6d 以上 (※4d 以上)	8d 以上 (※4d 以上)
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は3d以上、D19以上は4d以上			

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度以下90°以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による 区分	鉄筋の折り曲げ 内の寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235 SD295A SD295B SD345	16φ 以下 D16 19φ 以上 D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235 SD295A SD295B SD345	16φ 以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

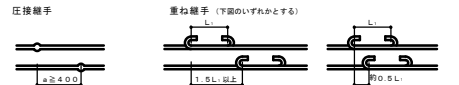
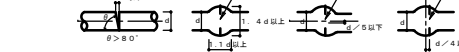
(3) 鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		鉄筋の長さ (L)	鉄筋の長さ (L)
		一般 (L ₁)	下ば筋 (L ₂)		
SR235	21～36	35dフックつき	25dフックつき	15cmフックつき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき	45dフックつき	45dフックつき	45dフックつき
SD295A	21～36	35dまたは 25dフックつき	25dまたは 10dかつ 15cm以上	40dまたは 30dかつ 15cm以上	40dまたは 30dかつ 15cm以上
SD295B	21～36	40dまたは 30dフックつき	40dまたは 30dフックつき	40dまたは 30dフックつき	40dまたは 30dフックつき
SD345	18以下	45dフックつき	45dフックつき	45dフックつき	45dフックつき

継手

1. 束筋のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直後の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ防止目的など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。

部 位	設計かぶり厚さ (mm)		最少かぶり厚さ (mm)	
	厚さ	径	厚さ	径
土に接しない部分	屋根スラブ 底スラブ 耐力壁	厚 30 厚 40 (20) 厚 40 (20)	厚 30 厚 40 (20) 厚 40 (20)	厚 30 厚 40 (20) 厚 40 (20)
	柱 はり 耐力壁	厚 40 厚 50 (30) 厚 50 (30)	厚 40 厚 50 (30) 厚 50 (30)	厚 40 厚 50 (30) 厚 50 (30)
土に接する部分	柱、はり、底スラブ、耐力壁	厚 50 厚 70	厚 50 厚 70	厚 50 厚 70
	基礎	厚 70	厚 70	厚 70

- 注: (1) 耐火性上有効な土上げがある場合、工事監督者の承認を受けて30mmとすることができる。
- (2) 耐火性上有効な土上げのある場合、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
- (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
- (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
- (5) () 内は土上げがある場合。

- (5) 鉄筋のあき
- 丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d 以上 鉄筋の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25 以上
- 図の●印の鉄筋の重ね継手の
末端にはフックが必要

(6) 鉄筋のフック (a～i に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

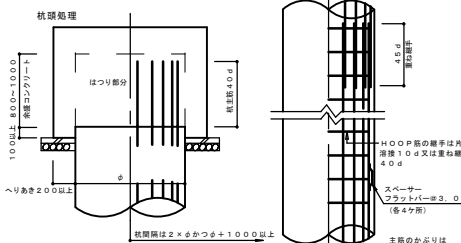
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁 (基礎は除く) の出する部分の鉄筋 (右図参照)
- e. 単純梁の下端筋
- f. その他、本記図標準に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

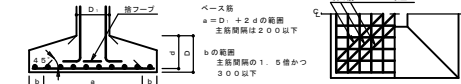
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭 径	300φ, 350φ, 400φ, 450φ, 500φ, 600φ
補強筋	6-D13, 8-D13, 10-D13, 8-D16, 10-D16
HOOP	D10-#150

(2) 現場打ちコンクリート杭

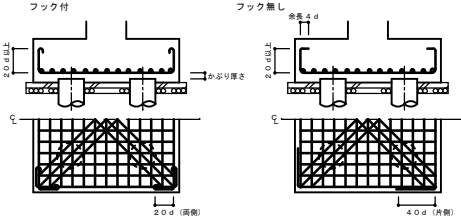


4. 基礎

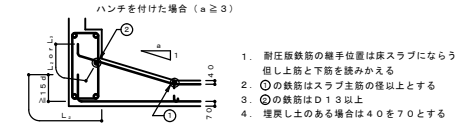
(1) 直接基礎



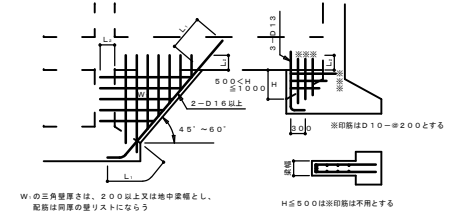
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

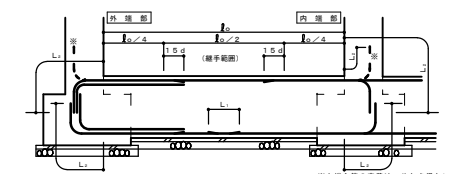


(4) 基礎接合部の補強

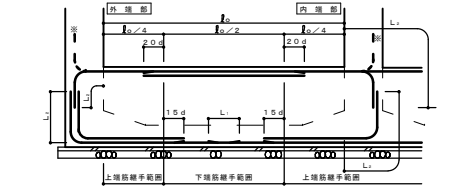


5. 地中梁

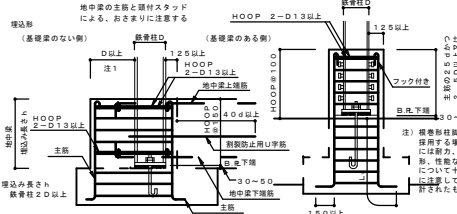
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



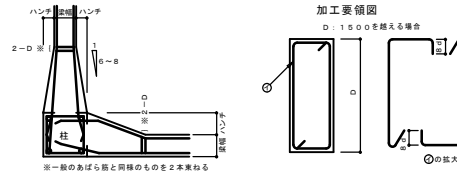
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

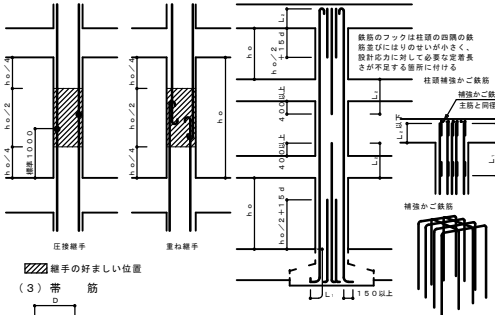


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

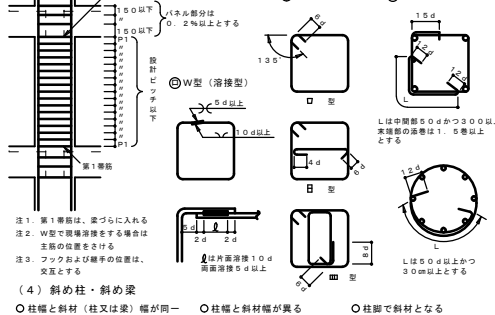


6. 柱

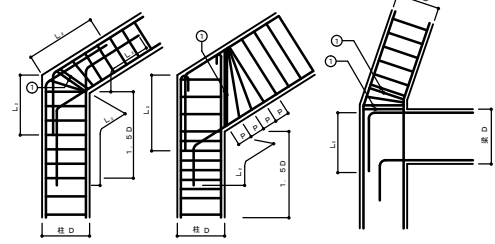
(1) 柱主筋の継手



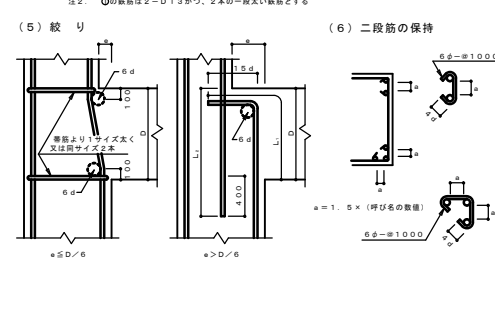
(2) 柱主筋の定着



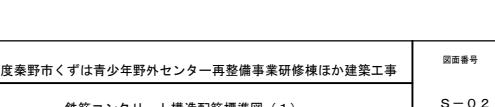
(3) 帯筋



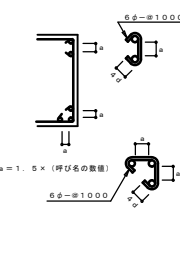
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞 り



(6) 二段筋の保持



〒259-1305 秦野市堀川13-2
(株) 岩田幸司設計事務所
1級建築士事務所
TEL 0463-88-3007

駅

-

開業年月

開業年

工事名

平成18年度秦野市くずは青少年野外センター再整備事業研修棟ほか建築工事

図面番号

S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)